

学年別 教科に関する調査結果考察資料
小学校

調査実施日 令和5年4月13日（木）

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

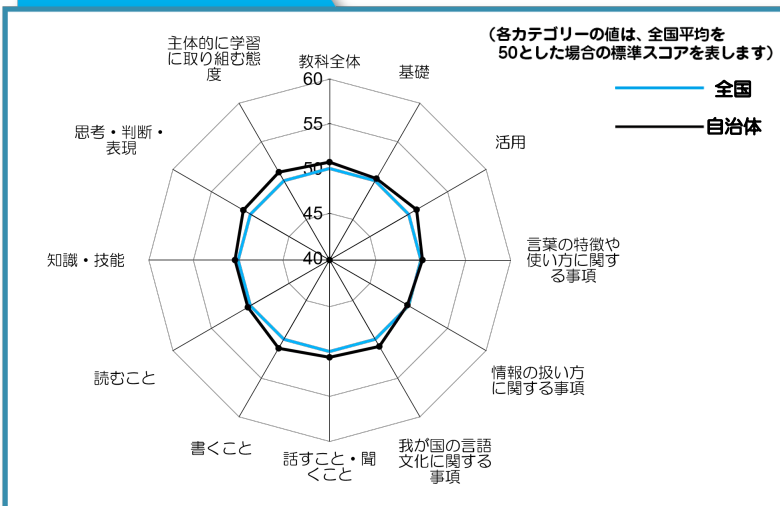
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		79.3	80.6	★
基礎		88.4	88.9	★
活用		62.2	65.0	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	90.9	91.2	★
	情報の扱い方に関する事項	65.6	64.9	★
	我が国の言語文化に関する事項	60.3	64.8	★
	話すこと・聞くこと	87.6	88.9	★
	書くこと	59.6	63.4	★
観点別	読むこと	78.4	79.2	★
	知識・技能	85.3	85.9	★
	思考・判断・表現	73.7	75.6	★
	主体的に学習に取り組む態度	62.0	65.6	★

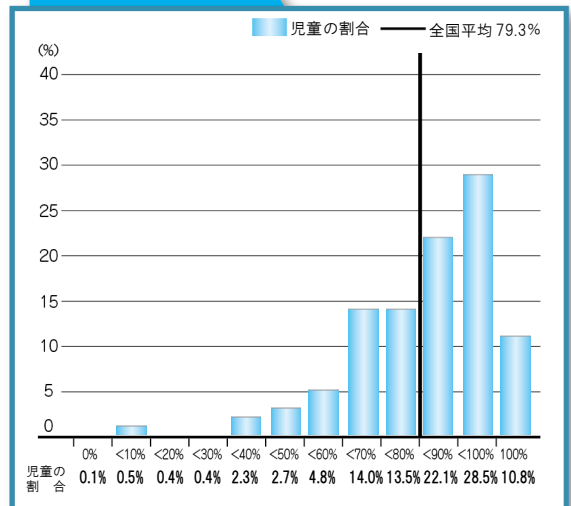
分析 コメント

- 小2国語は、教科全体の正答率が80.6%
- で、全国平均正答率を1.3ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が65.6%
- で、全国平均正答率を3.6ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

ものがたりをよみとる

大問4(2)

<ねらい> 場面の様子など、内容の大体を捉えている。

全国平均 95.1% 正答率 93.9% 差 ▲1.2 ポイント

指導のポイント 作品の中でどのような場面かを読み取る問題である。文章の内容を正確に読み取るには、特に低学年では、音読の指導が大切になる。文章を声に出して読むことにより、耳で聞いて内容をつかんだり、読み誤りに気付いたりすることができる。また、言葉を具体的にイメージさせるため、絵や写真と結び付けたり、動作化させたりして、言葉の力を獲得させることも必要である。

ことばの学しゅう

大問3(3)

<ねらい> 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。

全国平均 65.6% 正答率 64.9% 差 ▲0.7 ポイント

指導のポイント 「ゆでたまご」の作り方がイメージできないと、選択肢の内容が分かりにくい児童もいるであろう。しかし、アの「なべからたまごをとり出して」、イの「おゆをわかす」、ウの「おゆにたまごを入れて」という文言から、三つの作業工程の順序を明らかにすることができる。このように、それぞれの作業工程の情報をつなぎ合わせて考えていけばよい。事柄の順序について考えるときに大事なことは、何らかの観点に従って順序が決まっているという点を理解することである。観点が存在することについて、授業で意識して取り上げていくことも必要である。

小2 算数

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

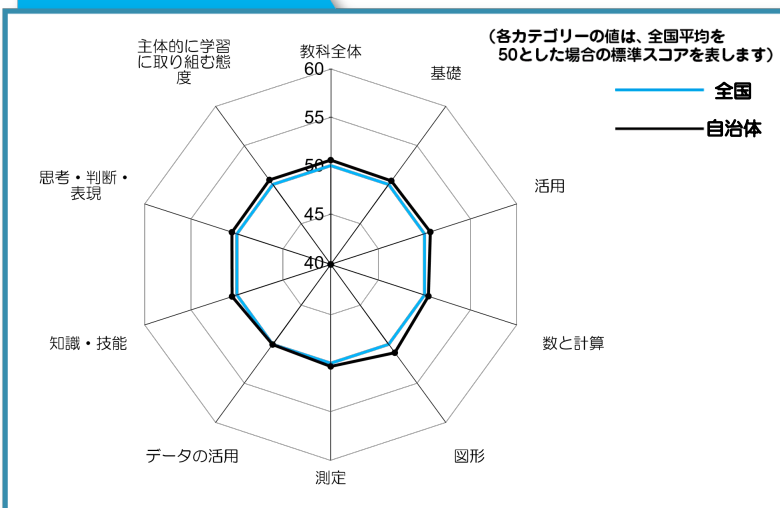
正答率一覧

		★全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		84.5	85.2		
基礎		89.5	90.0		
活用		65.1	66.7		
領域別	数と計算	86.7	87.3		
	図形	68.0	71.5		
	測定	82.1	82.6		
	データの活用	87.1	87.2		
観点別	知識・技能	89.1	89.7		
	思考・判断・表現	72.8	73.9		
	主体的に学習に取り組む態度	69.5	70.8		

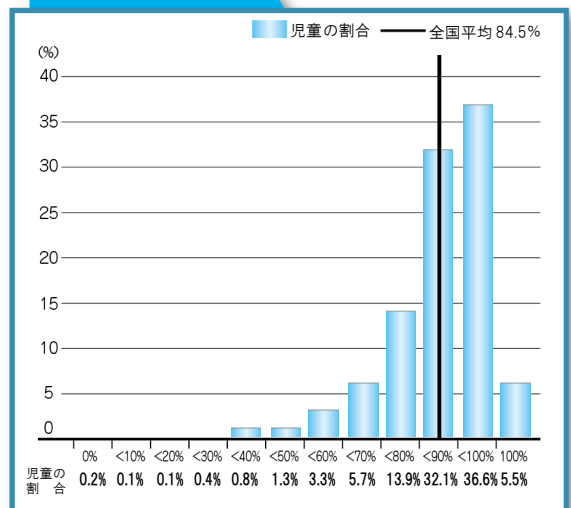
分析 コメント

- 小2算数は、教科全体の正答率が85.2%
- で、全国平均正答率を0.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が70.8%
- で、全国平均正答率を1.3ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

たしざん

大問8(1)

<ねらい> 加法を適用して、順序数と集合数の文章問題を解いている。

全国平均 79.8% 正答率 75.0% 差 ▲4.8 ポイント

指導のポイント 「〇番目」のように位置や順序を表す数も、集合数に置き換えると、既習の加法や減法を基にして考えられることを、絵や図、ブロックなどを使って指導していく必要がある。集合数を知って順序数を求めたり、順序数を基にして集合数を求めたりすることで、数量関係の理解を深めさせたい。

3つのかずのけいさん

大問2(7)

<ねらい> $10 - (1けた) + (1けた) = (1けた)$ の計算ができる。

全国平均 92.7% 正答率 91.6% 差 ▲1.1 ポイント

指導のポイント 3口の計算については、例えば $9 + 3$ という繰り上がりのある加法の計算の際、3を1と2に分解し、 $9 + 1 + 2$ の計算をして答えを求めたり、 $13 - 9$ という繰り下がりのある減法の計算の際、13を10と3に分解し、 $10 - 9 + 3$ の計算をして答えを求めたりする学習により、練習を積ませることができる。3口の計算を確実にできるようにすることで、繰り上がりや繰り下がりの計算もできるようになる。また、加法や減法の式を具体的な場面に結び付けて考えることで、加法や減法の意味理解を深め、式を読み取る力を育てることも大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

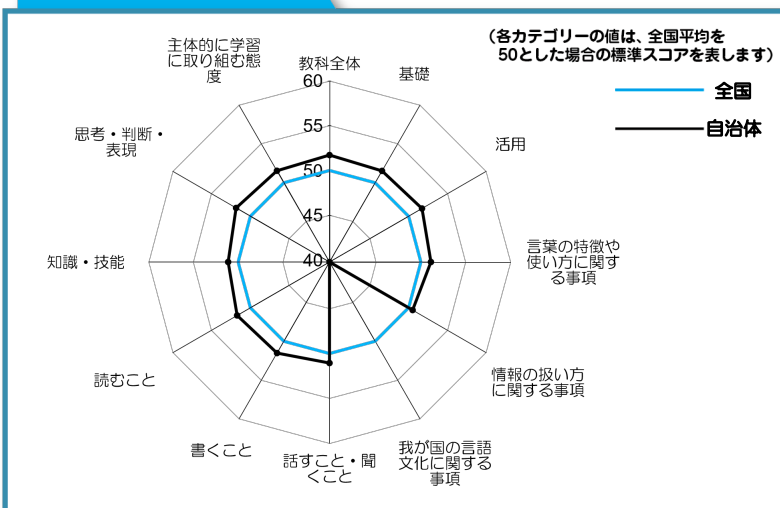
正答率一覧

		(単位%) ★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		78.3	81.8		
基礎		82.8	85.6		
活用		69.2	74.1		
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.0	84.3		
	情報の扱い方に関する事項	89.0	90.6		
	我が国の言語文化に関する事項				
	話すこと・聞くこと	88.2	90.4		
	書くこと	67.7	73.3		
観点別	読むこと	74.8	79.4		
	知識・技能	82.7	84.9		
	思考・判断・表現	75.1	79.6		
	主体的に学習に取り組む態度	69.5	74.9		

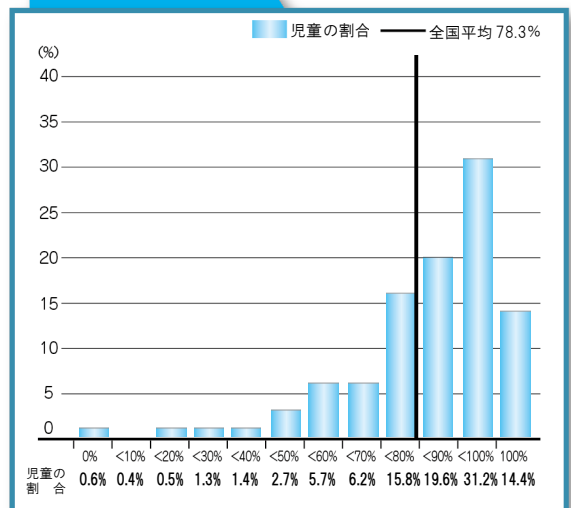
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が81.8%
- で、全国平均正答率を3.5ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が74.9%
- で、全国平均正答率を5.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

話を聞きとる

大問1(1)

<ねらい> 話し手が知らせたいことを落とさないように聞いている。

全国平均 96.9% 正答率 96.9% 差 0.0 ポイント

指導のポイント 話し手が知らせたいことを落とさずに聞き取る力を付けさせるには、授業の初めや朝の会、帰りの会などで、スピーチの時間を設けることが有効である。クラスでテーマを決めて5～6文のスピーチを行い、その話題について話し合ったり、質問し合ったりする機会を増やすとよい。国語の授業だけでなく、学校生活におけるさまざまな場面を通して、話す力・聞く力を伸ばしていくことが大切である。

ことばの学しゅう

大問3(4)

<ねらい> 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。

全国平均 89.0% 正答率 90.6% 差 1.6 ポイント

指導のポイント 事柄の順序は、一定の観点に基づいて情報と情報とが関連付けられているものである。事柄の順序としては、例えば、時間、作業工程、重要度などが挙げられるが、中でも時間の順序は、事柄の順序を示すときに、最も使われるものである。本問でも、時間に着目して順序を決めることが求められている。また、事柄の順序は、文章を読むときにも活用していく必要がある。例えば、物語や小説などについては、時間の順序によって場面展開がされていることが多い。事柄の順序は、そうした読むことの学習でも、児童に意識させたいものの一つである。

小3 算数

「思考・判断・表現」が良好である

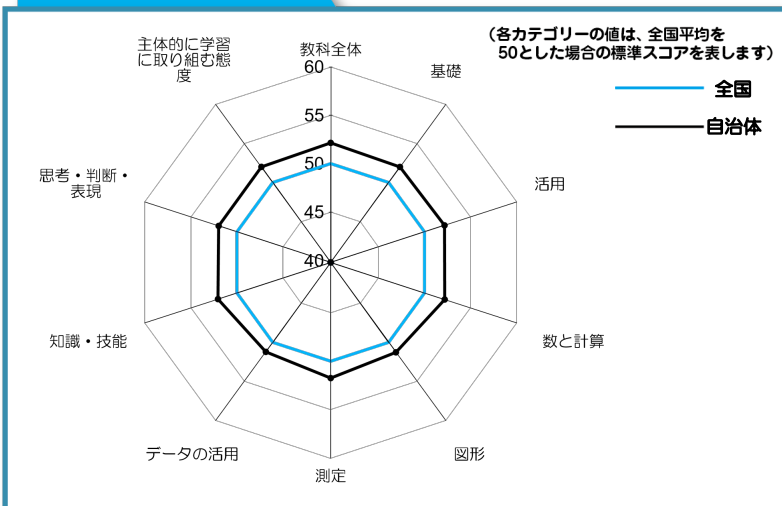
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体
教科全体		77.4	81.5
基礎		81.2	84.8
活用		63.6	69.4
領域別	数と計算	79.9	83.9
	図形	79.1	82.8
	測定	69.8	74.2
	データの活用	75.7	80.6
観点別	知識・技能	79.7	83.4
	思考・判断・表現	63.0	68.9
	主体的に学習に取り組む態度	66.2	71.2

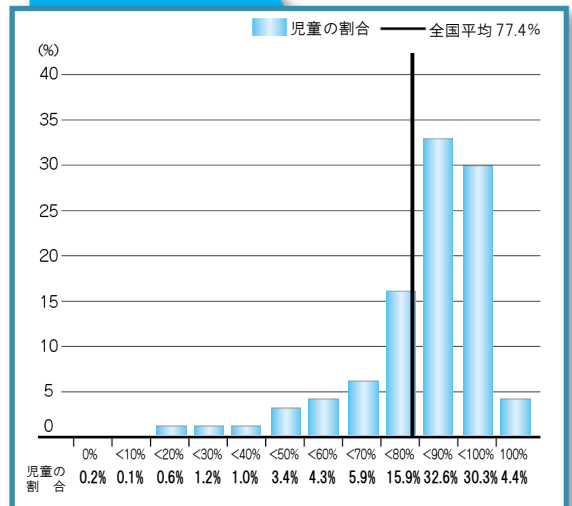
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が81.5%
- で、全国平均正答率を4.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が68.9%で、全国平均正答率を5.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

かけ算

大問4(8)

<ねらい> 7の段の九九ができる。

全国平均 94.2% 正答率 94.0% 差 ▲0.2 ポイント

指導のポイント 乗法及び乗法九九については、第2学年で学習する。乗法九九の暗算の基礎となるのは、1から9までの数(基数)に同じ1から9までの数(基数)をかける81通りの乗法であり、これを表にまとめたものが九九表と呼ばれる。指導に当たっては、九九表を単に暗記させるのではなく、児童自身が九九表を構成していくようにさせたい。具体的な場面と結び付けながら、どの段の乗法九九についても十分習熟させることが大切である。

たし算・ひき算

大問4(2)

<ねらい> $3けた + 1けた = 3けた$ (繰り上がり1回)の計算ができる。

全国平均 90.7% 正答率 91.7% 差 1.0 ポイント

指導のポイント 2位数や3位数などの加法も、第1学年で学習した、1位数どうしの計算の仕方を基に、位ごとの計算を繰り返すことによって、和を求めることができる。筆算指導においては、位をそろえて書く、繰り上がった数を小さく書くなどの指導を丁寧に行い、けた数が増えても計算の仕組みは同じであることに気付かせることが大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

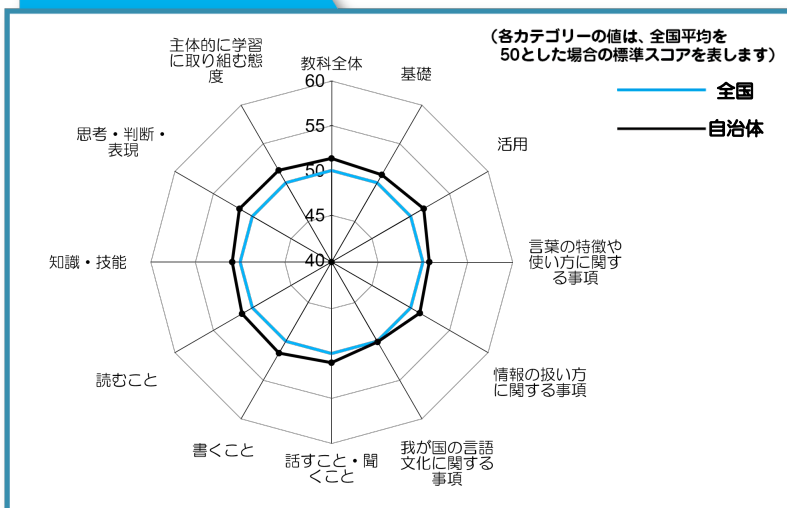
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		70.1	73.0	★
基礎		75.6	77.7	★
活用		57.8	62.5	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	75.4	★
	情報の扱い方に関する事項	61.6	65.4	★
	我が国の言語文化に関する事項	73.6	74.0	★
	話すこと・聞くこと	74.2	76.4	★
	書くこと	54.8	60.1	★
	読むこと	73.2	76.9	★
観点別	知識・技能	71.1	73.2	★
	思考・判断・表現	66.0	70.1	★
	主体的に学習に取り組む態度	54.0	59.5	★

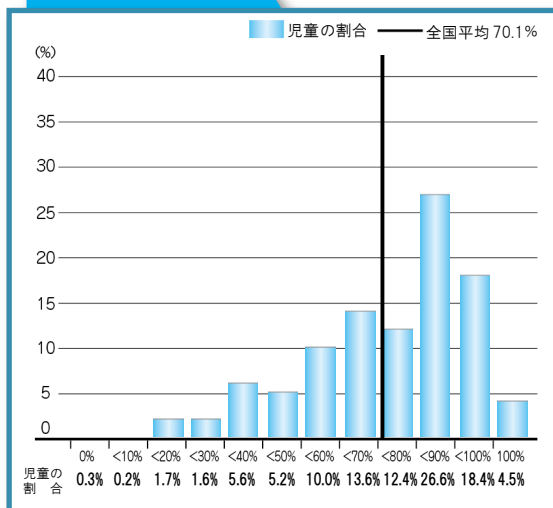
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が73.0%
- で、全国平均正答率を2.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「主体的に学習に取り組む態度」が59.5%
- で、全国平均正答率を5.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。

全国平均 80.9% 正答率 77.6% 差 ▲3.3 ポイント

指導のポイント 漢字の書きの指導においては、新しい漢字を学習する際に、熟語作りや文作りの活動をできるだけ多く取り入れることが大切である。ゲーム形式で、身の回りのものを習った漢字を使って書かせるなど、漢字を日常的に使われる形にして習得させることが必要である。

言葉の学習

大問3(4)

<ねらい> 漢字のへんやつくりを理解している。

全国平均 73.6% 正答率 74.0% 差 0.4 ポイント

指導のポイント 漢字のへんについて理解しているかを問う問題である。本問では、選択肢のへんを順に空欄三つに当てはめ確かめていけば、「にんべん」だけが全ての空欄に当てはまることが分かる。ただし、へんについての知識だけでなく、問題に挙げられている漢字そのものについての知識を身に付けていることも重要である。漢字の理解は、言葉を使う力の重要な基礎に当たる。漢字の書き取りの練習だけでなく、さまざまな学習の仕方を工夫することにより、漢字が好きで、漢字について幅広い知識をもった児童を育成していきたい。

小4算数

「思考・判断・表現」が良好である

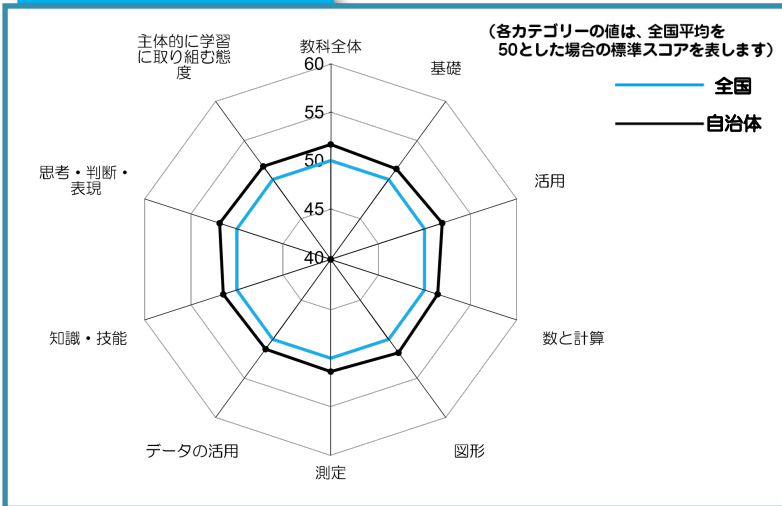
正答率一覧

		★全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		74.9	78.0		
基礎		81.9	84.3		
活用		55.9	61.1		
領域別	数と計算	75.2	78.0		
	図形	66.6	71.7		
	測定	76.4	79.5		
	データの活用	79.7	83.1		
観点別	知識・技能	78.6	81.3		
	思考・判断・表現	58.8	64.0		
	主体的に学習に取り組む態度	72.4	76.1		

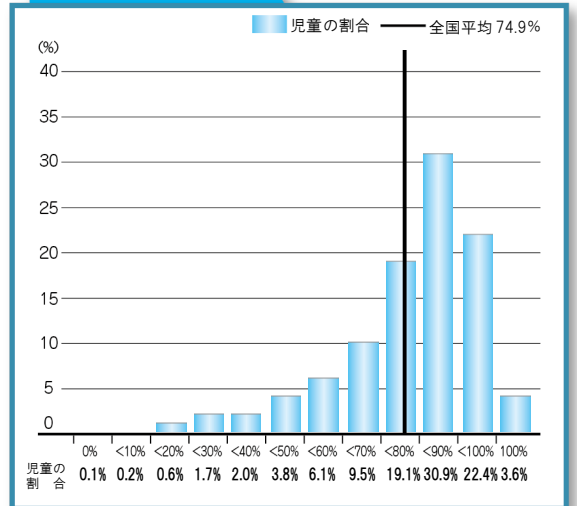
分析コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が78.0%
- で、全国平均正答率を3.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が64.0%で、全国平均正答率を5.2ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

大きい数・小数・分数

大問1

<ねらい> 命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。

全国平均 72.7% 正答率 70.9% 差 ▲1.8 ポイント

指導のポイント 日本語の数の読み方が4けた区切りになっていることについて、きちんと理解できていないと考えられる。位取り板を用いて、大きな数は4けたずつに区切れば読みやすくなることを指導する必要がある。なお、空位になる箇所がある場合には、記数法に直す際に十分注意させたい。

かけ算

大問4(4)

<ねらい> 3けた×2けた=4けたの計算ができる。

全国平均 64.3% 正答率 64.8% 差 0.5 ポイント

指導のポイント 誤答の原因としては、繰り上げる際の計算の間違いや、位取りの間違いが考えられる。繰り上がりについては、繰り上げる数を小さく書く習慣を身に付け、正しく計算できるように指導することが大切である。また、位取りについては、例えば十の位の3をかける場合、10を基に計算していることが分かるように、筆算の意味指導を丁寧に行う必要がある。

小4理科

「知識・技能」が良好である

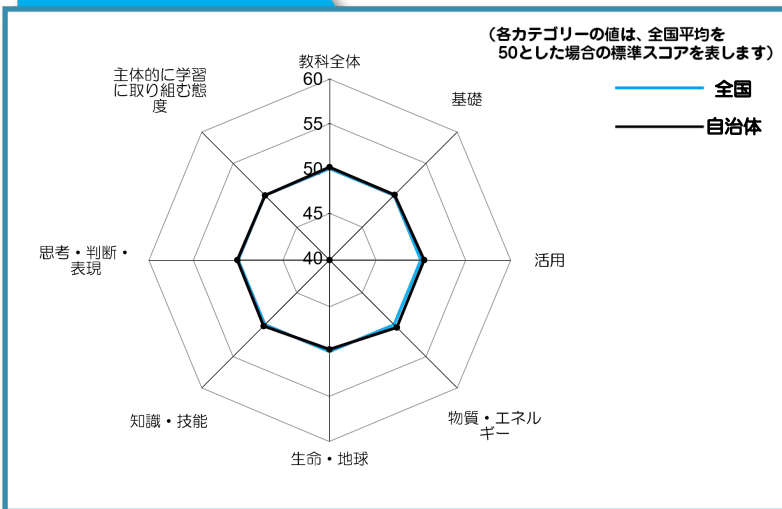
正答率一覧

		★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		73.1	73.3		★
基礎		77.0	77.1		★
活用		54.6	55.6		★
領域別	物質・エネルギー	74.0	74.9		★
	生命・地球	72.0	71.6		★
観点別	知識・技能	74.4	74.8		★
	思考・判断・表現	72.0	72.2		★
	主体的に学習に取り組む態度	68.8	68.8		★

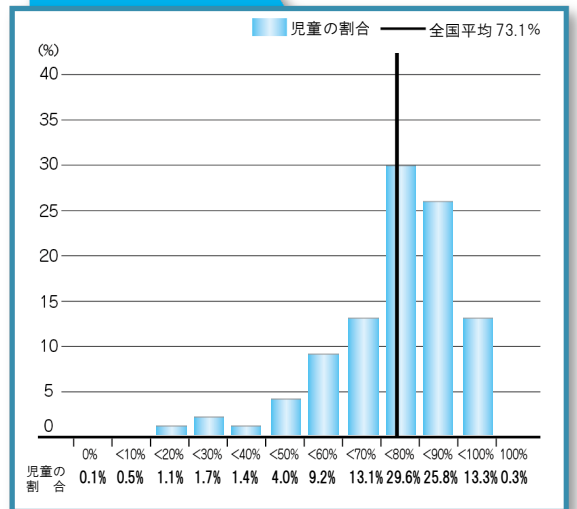
分析コメント

- 小4理科は、教科全体の正答率が73.3%
- で、全国平均正答率を0.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「知識・技能」が74.8%で、全国平均正答率を0.4ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

植物の育ち方

大問2(3)

<ねらい> ホウセンカの花をさかせたあとには、実ができることを理解している。

全国平均 53.8% 正答率 47.0% 差 ▲6.8 ポイント

指導のポイント 植物の個体の育ち方（発芽→成長→開花→結実）については、図や映像を使うだけでなく、「継続的な観察」及び「記録」を重視した学習指導を展開することが必要である。「実（果実）」という名称については、身近な植物を例に挙げるなどして、知識として確実に習得させたい。

太陽と地面のようす

大問5(2)

<ねらい> 正午ごろの日なたと日かげの地面の温度を示した温度計を指摘できる。

全国平均 64.0% 正答率 61.2% 差 ▲2.8 ポイント

指導のポイント 時間経過に伴う、日なたと日陰の地面の温度の変化を実際に測定させ、その記録をグラフにまとめさせたり、説明させたりする指導が望まれる。日なたも日陰も、午前中から正午にかけて地面の温度が上がっていくことをしっかりと理解させたい。日なたと日陰の地面の温度の違いについては、児童の実体験が不足していると考えられるので、授業の際には積極的に実験を行わせ、体験させることが大切である。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

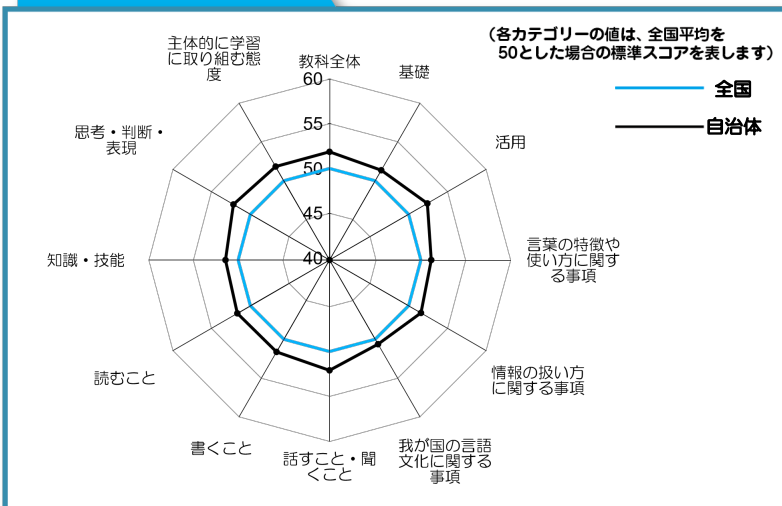
正答率一覧

		★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		68.2	72.2		
基礎		73.7	76.5		
活用		56.0	62.6		
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.0	73.8		
	情報の扱い方に関する事項	44.5	50.6		
	我が国の言語文化に関する事項	86.6	88.8		
	話すこと・聞くこと	57.1	63.0		
	書くこと	64.0	70.7		
	読むこと	73.1	76.9		
観点別	知識・技能	68.1	71.3		
	思考・判断・表現	65.4	70.6		
	主体的に学習に取り組む態度	56.8	63.1		

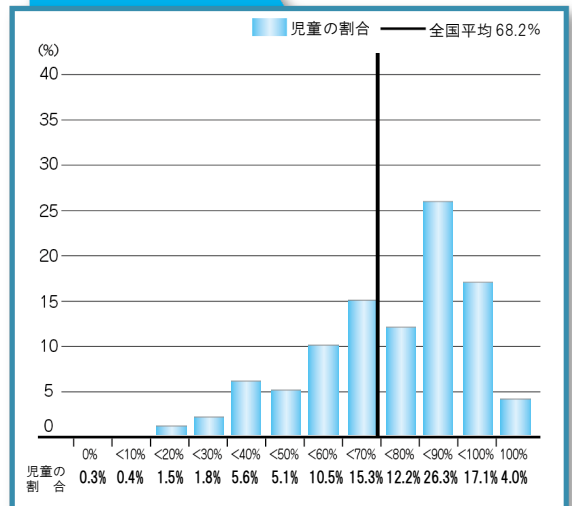
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が72.2%
- で、全国平均正答率を4.0ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が63.1%
- で、全国平均正答率を6.3ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)②

<ねらい> 第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。

全国平均 69.3% 正答率 68.8% 差 ▲0.5 ポイント

指導のポイント 日常よく目にする漢字であっても、いざ書くとなると書けないことが多い。国語科の漢字の指導において、日頃から小テストなどを通して習熟を図るとともに、他教科の書く活動などの中でも、既習漢字を使うように指導することが大切である。

物語の内ようを読み取る

大問4(1)

<ねらい> 登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。

全国平均 90.0% 正答率 92.3% 差 2.3 ポイント

指導のポイント 文学的な文章において、文章の叙述を基に、登場人物の気持ちなどを捉えることは、基本となる読み方の一つである。本問では、設問部の直前の「できないままでやめたら、……なるかもしれない」という発言が、「桜乃」の発言だと理解した上で、その内容を読み取らなくてはならないことに注意させる必要がある。長い文章であっても、それぞれの場面で登場人物がどのような行動をとっているのか、また、それらの行動の背景にある気持ちはどのようなものであるのかを、きちんと読み取れるようにしておきたい。

小5算数

「思考・判断・表現」が良好である

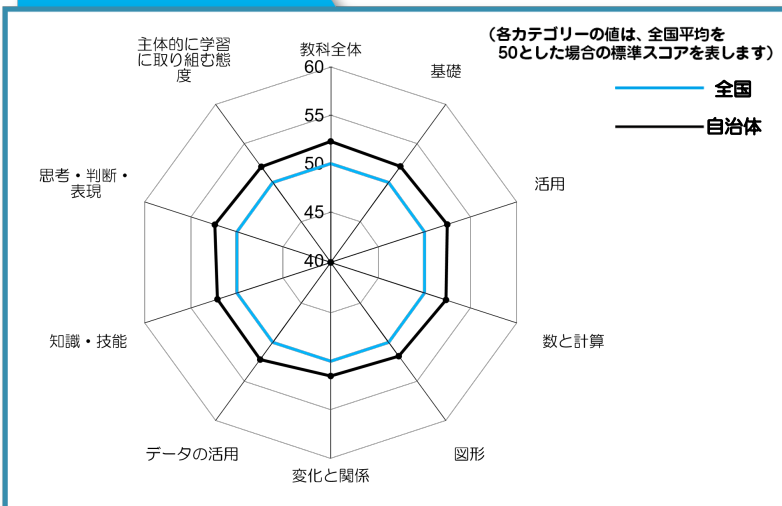
正答率一覧

		(単位%) ★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		71.9	76.8		★
基礎		75.7	80.0		★
活用		60.2	67.1		★
領域別	数と計算	74.7	79.8		★
	図形	69.0	73.2		★
	変化と関係	75.9	80.3		★
	データの活用	62.2	69.2		★
観点別	知識・技能	75.9	80.3		★
	思考・判断・表現	55.2	62.3		★
	主体的に学習に取り組む態度	67.2	73.1		★

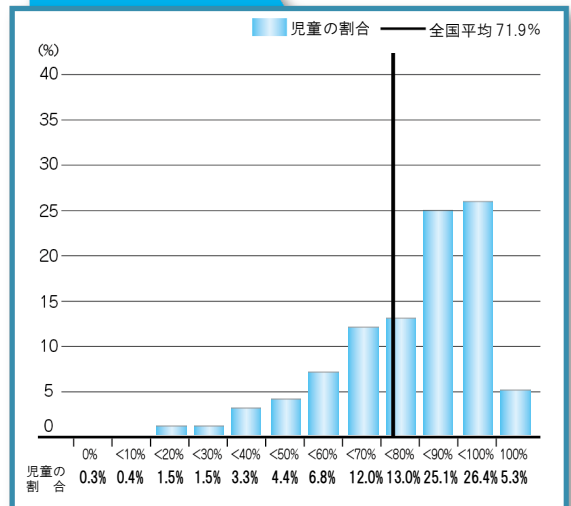
分析コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が76.8%
- で、全国平均正答率を4.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が62.3%で、全国平均正答率を7.1ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

変わり方調べ

大問18(1)

<ねらい> 伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができる。

全国平均 88.0% 正答率 89.2% 差 1.2 ポイント

指導のポイント 変わり方調べでは、具体的な事象から変化の様子を表に表す。次に、表から変化のきまりを見つける。変化のきまりは、表を横に見るとときと縦に見るときがあり、表を縦に見て見つけたきまりは、□や○を使った式に表して一般化できるよさがあることを理解させたい。きまりを一般化すると、一方の数が決まれば、計算してもう一方の数を導き出すことができる。そのよさ分かるように指導することも大切である。

角の大きさ

大問11(1)

<ねらい> 分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取ることができる。

全国平均 84.1% 正答率 85.7% 差 1.6 ポイント

指導のポイント 誤答の多くは115°としてしまったものと考えられる。これは、分度器には右からの目盛りと左からの目盛りが示されているので、どちらから読むのかを間違えたものである。分度器を使うときは、角の一辺に基線(0°の線)を合わせ、もう一辺と重なっている目盛りを読むことで、2つの辺の開き具合を測る。その際、角がどちらの方向に開いているのかを確認するよう指導したい。また、角度を測る前に、90°より大きい小さいかなどを見積もりをさせることも有効である。

小5理科

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

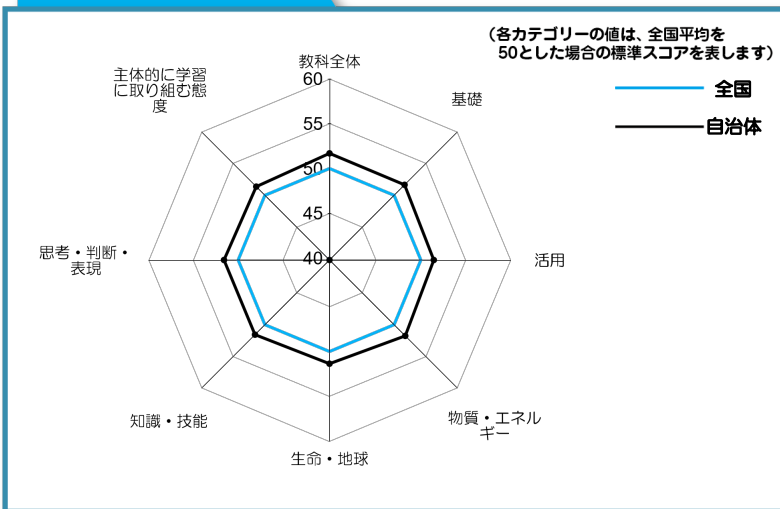
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		66.7	69.9	★
基礎		66.9	69.9	★
活用		66.1	69.7	★
領域別	物質・エネルギー	64.7	68.5	★
	生命・地球	68.6	71.1	★
観点別	知識・技能	70.9	73.9	★
	思考・判断・表現	61.7	65.0	★
	主体的に学習に取り組む態度	52.3	56.2	★

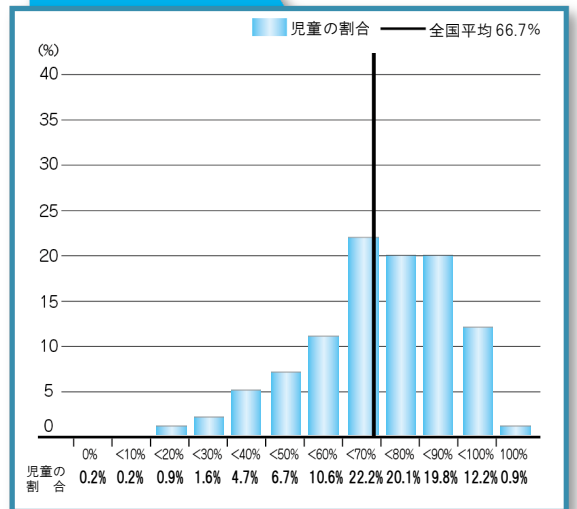
分析コメント

- 小5理科は、教科全体の正答率が69.9%
- で、全国平均正答率を3.2ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が56.2%
- で、全国平均正答率を3.9ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

物の体積と力

大問7(1)

<ねらい> 閉じこめられた空気をおしていくと、おし返す力が大きくなることを理解している。

全国平均 82.4% 正答率 80.4% 差 ▲2.0 ポイント

指導のポイント 閉じ込められた空気は、圧されると体積が小さくなり、小さくなった空気には、元の体積に戻ろうとする性質があることを理解させる必要がある。本問のような注射器を使った実験の場合、注射器から空気もれていないことを確認させてから、繰り返しピストンを押したり離したりさせて、そのときの手ごたえやピストンの動き方、空気の体積の変化を捉えさせるとよい。

天気の様子と気温

大問3(1)

<ねらい> 気温の測り方として適切なものを指摘できる。

全国平均 66.1% 正答率 65.5% 差 ▲0.6 ポイント

指導のポイント 気温（空気の温度）は、日光の当たり方や地面からの高さなど、測る条件によって違うことを具体例を示して説明した上で、次の3つの条件をそろえて測った空気の温度が「気温」であることを指導する。①温度計に、日光が直接当たらないようにして測る、②温度計を、地面から1.2～1.5mの高さにして測る、③建物から離れた風通しのよいところで測る。気温を正しく測るには、百葉箱の中の温度計で測るとよいが、百葉箱がないときは、上記①～③に注意して測るように指導するとよい。

「思考・判断・表現」が良好である

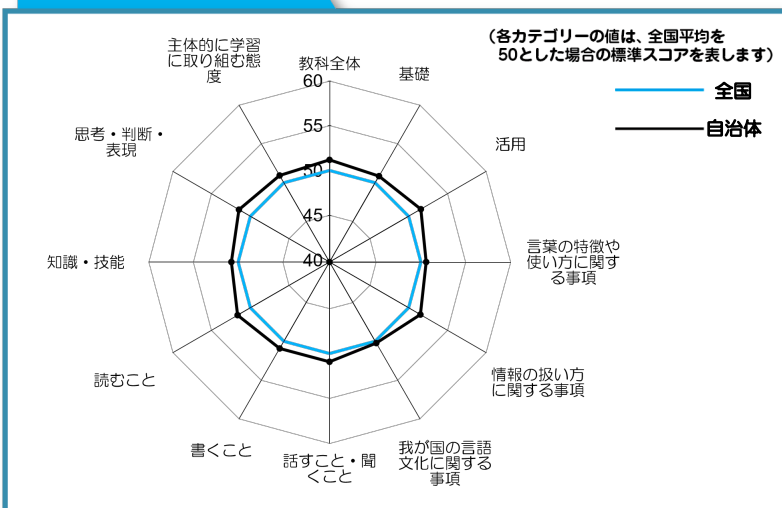
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体	(%)
教科全体		73.2	75.5	★
基礎		77.3	79.0	★
活用		64.0	67.9	★
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	76.4	★
	情報の扱い方に関する事項	77.3	83.6	★
	我が国の言語文化に関する事項	61.2	62.3	★
	話すこと・聞くこと	82.1	84.3	★
	書くこと	68.3	70.9	★
観点別	読むこと	72.0	76.1	★
	知識・技能	74.1	75.8	★
	思考・判断・表現	72.5	75.7	★
	主体的に学習に取り組む態度	70.9	73.5	★

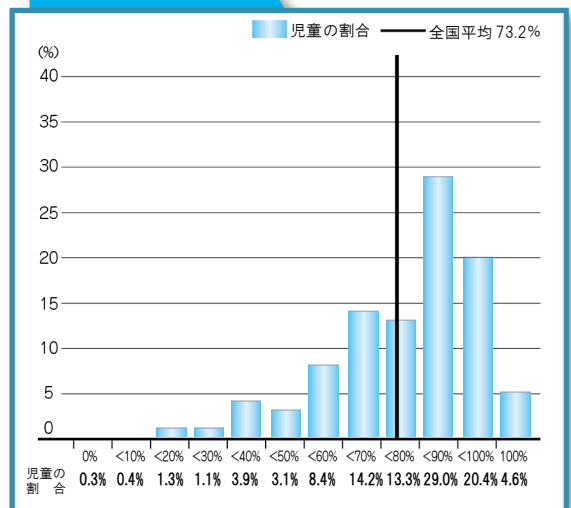
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が75.5%
- で、全国平均正答率を2.3ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が75.7%で、全国平均正答率を3.2ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第5学年に配当されている漢字を正しく書いている。

全国平均 65.6% 正答率 64.8% 差 ▲0.8 ポイント

指導のポイント 「現す」と「表す」の意味や使い方の違いについて理解していない児童が多いと思われる。こうした訓読みが同じ漢字を区別する際には、音読みの熟語を作ってみると効果的である。「現す」なら「出現」「実現」「再現」。「表す」なら「発表」「表示」「表明」。そうして比較してみると、漢字の意味や使い方の違いが分かってくる。本問の場合は、「出現」という熟語で置き換えられることが、どちらの漢字が適切かを判断する際の参考になる。

言葉の学習

大問3(4)

<ねらい> 敬語について理解し、正しく使っている。

全国平均 70.8% 正答率 70.6% 差 ▲0.2 ポイント

指導のポイント 正しい敬語の使い方が身に付いているかを見る問題であり、正答するためには、「食べる」の謙譲語の「いただく」について理解している必要がある。敬語については、特に動作の主体によって、尊敬語を使うのか、謙譲語を使うのかが決まることを理解させたい。本問のような動詞の場合、普通の言い方に対して、尊敬の動詞による表現、謙譲の動詞による表現について整理させる。また、敬語を実際の生活の中で使うことができるようにするために、授業だけでなく学校生活全般にわたっての、丁寧な指導を継続していくことも必要となる。

「主体的に学習に取り組む態度」が良好である

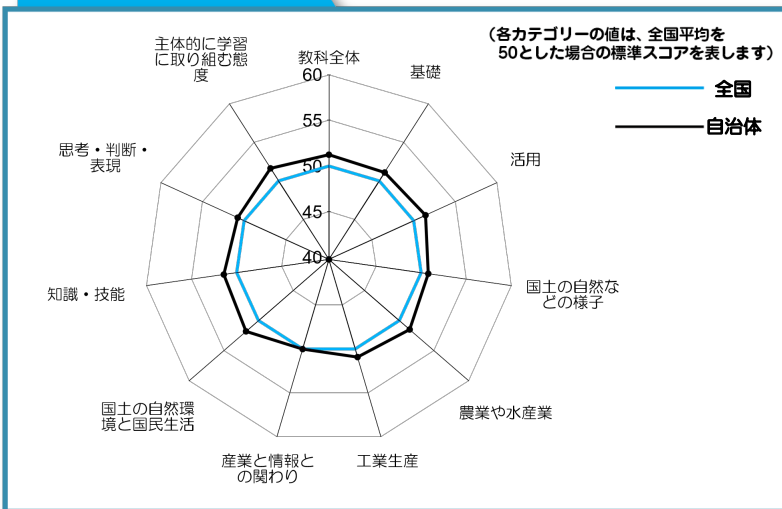
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体
教科全体		69.1	71.8
基礎		71.1	73.5
活用		63.1	66.9
領域別	国土の自然などの様子	62.3	64.6
	農業や水産業	67.5	71.4
	工業生産	68.8	71.1
	産業と情報との関わり	84.3	84.4
	国土の自然環境と国民生活	68.2	72.9
観点別	知識・技能	70.1	73.4
	思考・判断・表現	67.4	69.2
	主体的に学習に取り組む態度	65.4	69.9

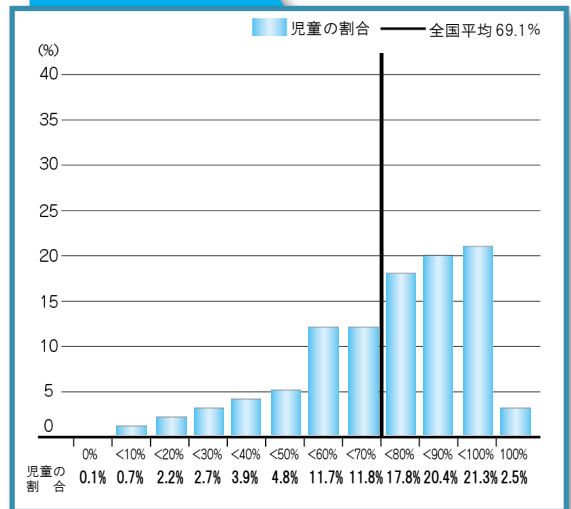
分析 コメント

- 小6社会は、教科全体の正答率が71.8%
- で、全国平均正答率を2.7ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「主体的に学習に取り組む態度」が69.9%
- で、全国平均正答率を4.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

自動車をつくる工業

大問4(1)

<ねらい> 自動車の製作工程におけるプレスを理解している。

全国平均 51.5% 正答率 46.2% 差 ▲5.3 ポイント

指導のポイント 自動車工場の製作工程については、プレス→溶接→塗装→組み立てという流れを、用語も含めてきちんと押さえるように指導する必要がある。近くに自動車工場がある環境にあれば、実際に工場見学に行かせ、それぞれの工程でどのような作業が行われているのかを児童一人一人に確かめさせて、見学のまとめを書かせるとよい。

日本の国土と人々の暮らし

大問1(2)②

<ねらい> 日本海側の気候についての理解をもとに、雨温図を判断している。

全国平均 47.1% 正答率 46.0% 差 ▲1.1 ポイント

指導のポイント まず、雨温図について、月ごとの気温(°C)を折れ線グラフ、降水量(mm)を棒グラフで表し、グラフの左に降水量の目盛り、右に気温の目盛りがあるという特徴を確認させる。気温の目盛りの一番下が0ではないことに注意させたい。次に、月別平均気温と降水量の変化に着目させ、季節のサイクルを捉えさせる。いくつかの都市の雨温図を比べてみることで、気候の特徴を見いだすことができる。日本海側では、降水量の変化に着目させ、なぜ冬に降水量が多いのか、その背景に気付かせることが重要である。

小6 算数

「思考・判断・表現」が良好である

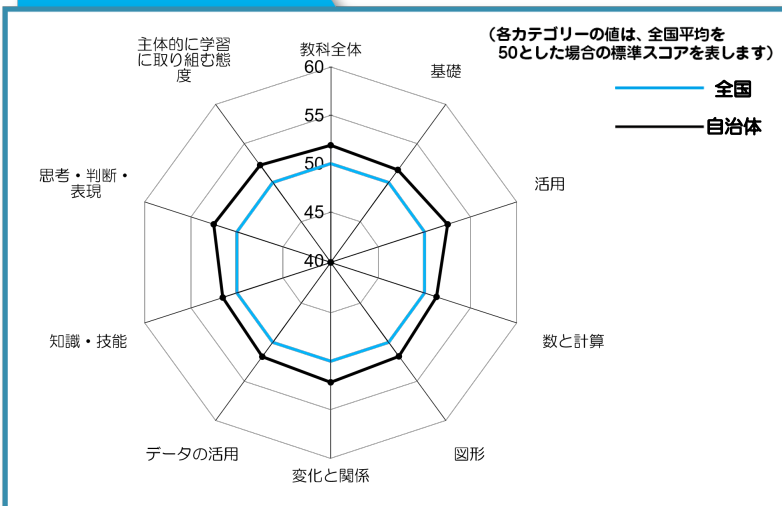
正答率一覧

(単位%) ★=全国平均正答率		全国平均	自治体
教科全体		70.9	74.8
基礎		75.6	79.0
活用		50.7	57.0
領域別	数と計算	75.6	78.5
	図形	73.9	77.9
	変化と関係	58.4	63.8
	データの活用	58.0	65.2
観点別	知識・技能	76.5	79.8
	思考・判断・表現	53.4	59.4
	主体的に学習に取り組む態度	54.8	60.7

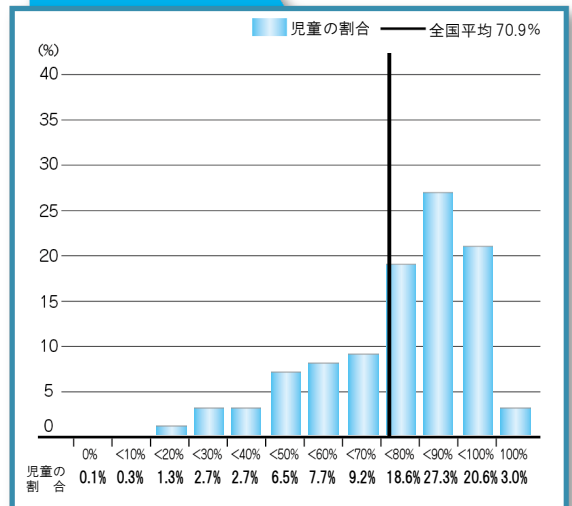
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が74.8%
- で、全国平均正答率を3.9ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で全国平均正答率に達している。中でも、「思考・判断・表現」が59.4%で、全国平均正答率を6.0ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数と小数

大問2(1)

<ねらい> 小数を1/100にした数を求めることができる。

全国平均 74.4% 正答率 73.9% 差 ▲0.5 ポイント

指導のポイント 誤答としては、3.08を100倍にしてしまったものや、小数点の位置を間違えて0.308としてしまったものなどが考えられる。小数は、小数点を機械的に動かせば10倍、100倍、…や、1/10、1/100、…の数を簡単に導き出すことができる。その際、技能だけでなく、元の数が100倍、1/100になったときの数の大きさを理解できる豊かな数感覚を養わせることも大切である。

比例・単位量あたりの大きさ

大問15

<ねらい> 伴って変わる二つの量の関係を表した表を見て、比例関係にあるものを選ぶことができる。

全国平均 87.4% 正答率 87.0% 差 ▲0.4 ポイント

指導のポイント 比例関係にある2量には、「一方が2倍、3倍…になるとき、もう一方も2倍、3倍…になる」という関係がある。これを基に考えると、「たての長さが3cmの長方形の横の長さ」と面積が比例関係にあることが分かる。なお、「妹と兄の年れい」は差が一定の関係、「立方体の1辺の長さ」と体積は(1辺の長さ)×(1辺の長さ)×(1辺の長さ)=(体積)の関係、「読んだページ数と残りのページ数」は(読んだページ数)+(残りのページ数)=(総ページ数)の関係である。身の回りで比例関係が成り立つ事象を探して、表現し合う活動に取り組みたい。

小6 理科

「思考・判断・表現」が良好である

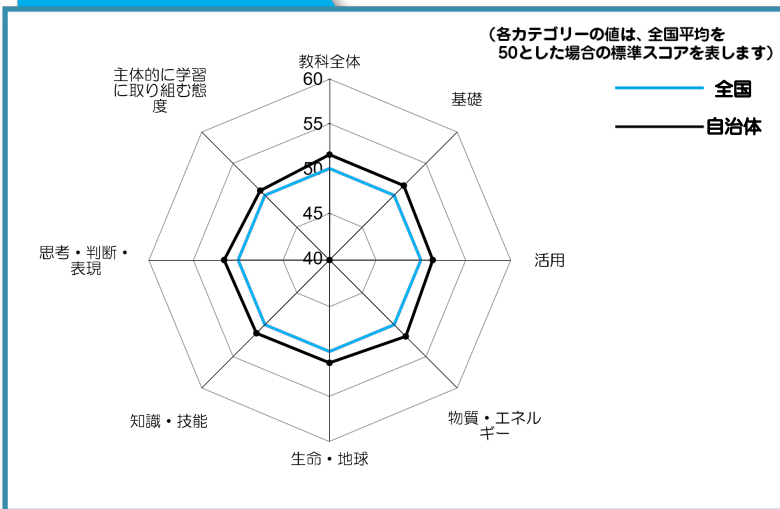
正答率一覧

		(単位%) ★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体		72.4	75.5		★
基礎		75.6	78.7		★
活用		63.7	67.0		★
領域別	物質・エネルギー	62.4	67.2		★
	生命・地球	76.1	78.7		★
観点別	知識・技能	74.7	77.5		★
	思考・判断・表現	70.4	73.9		★
	主体的に学習に取り組む態度	71.1	73.1		★

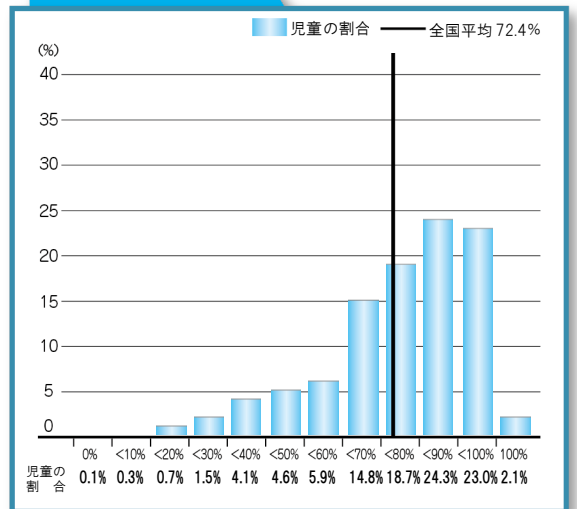
分析 コメント

- 小6理科は、教科全体の正答率が75.5%
- で、全国平均正答率を3.1ポイント上回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 全国平均正答率に達している。中でも、
- 「思考・判断・表現」が73.9%で、全国平均
- 正答率を3.5ポイント上回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

人のたんじょう

大問5(1)

<ねらい> 子宮の中の子どもと胎盤をつなぐ部分を、「へそのお」ということを理解している。

全国平均 86.1% 正答率 84.9% 差 ▲1.2 ポイント

指導のポイント 人の誕生については、教科書のイラストなどを活用したり、黒板に図示したりしながら、①子どものへその緒は、母親の子宮の壁にある胎盤とつながっていること、②子どもは、へその緒を通して、母親から養分などを取り入れ、いらなくなったものを返していること、③羊水は、子宮の中にいる子どもを囲んでいて、外部からの力を和らげ、子どもを守る働きをしていることを、科学的な言葉で説明できるようにさせたい。

天気の変化

大問1(2)②

<ねらい> 日本付近を通過する台風の進路を理解している。

全国平均 81.7% 正答率 82.3% 差 0.6 ポイント

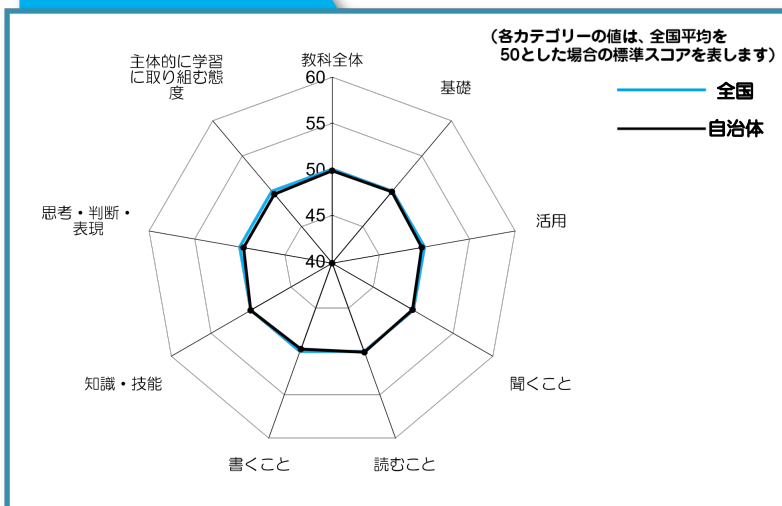
指導のポイント 台風が、日本付近をどのように進んでいくかについて調べさせ、話し合わせる時間を確保することが大切である。具体的には、①教科書の資料から、台風の進路のおよその傾向について話し合わせる、②台風は、日本の南の方で発生し、西から東への天気の変化とは異なる、特有の動きをすることを捉えさせる、③台風が近づくことによって、強風や大量の雨がもたらされるなど、天気の様子が大きく変わることを捉えさせる。

「主体的に学習に取り組む態度」の定着に課題が残る

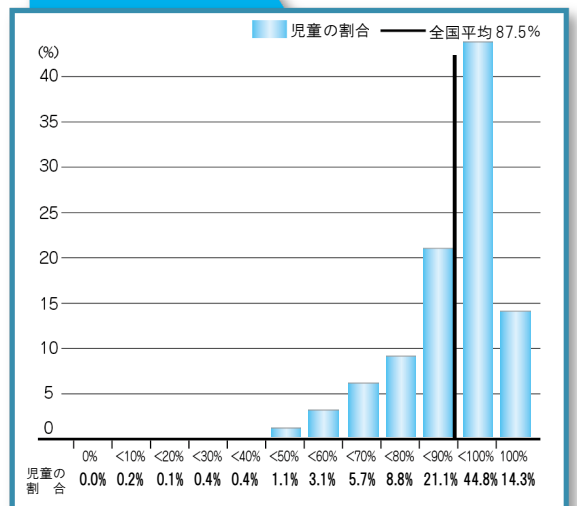
正答率一覧

		★=全国平均正答率	全国平均	自治体	(%)
教科全体			87.5	87.3	★
基礎			88.3	88.2	★
活用			84.6	84.0	★
領域別	聞くこと		89.1	89.0	★
	読むこと		86.2	86.4	★
	書くこと		86.1	85.7	★
観点別	知識・技能		87.8	87.8	★
	思考・判断・表現		87.1	86.4	★
	主体的に学習に取り組む態度		85.9	84.9	★

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

アルファベットの書き(聞く)

大問3(3)

<ねらい> 音声を聞き、活字体の小文字を正しく書いている。(r)

全国平均 76.0% 正答率 72.9% 差 ▲3.1 ポイント

指導のポイント アルファベットの聞き取りや書き取りを行う際に、児童は、発音と文字の形を連動させずに覚えている場合がある。授業で扱う際に、音だけでアルファベット順を覚えさせたり、フラッシュカードを見せて、そのアルファベットを答えさせたりする活動だけを行っている、上記のような状態になってしまう。アルファベットの歌を歌うときでも、必ず形を見せられるようにしておくことが大切である。また、アルファベット順に覚えさせるだけではなく、ランダムに出てきても、音と形が思い浮かぶ状態にまで習熟させるようにしたい。

日常会話の理解(聞く)

大問4(3)

<ねらい> 身近で簡単な事柄についての対話を聞き、その内容を理解している。(好きな教科)

全国平均 93.2% 正答率 90.6% 差 ▲2.6 ポイント

指導のポイント 教科を扱う授業では、ほとんどの教科名を習得単語として扱っている、馴染みのある児童は多い。その中でも理解するのが難しいもの(道徳、図工、書写など)以外については、必ず覚えるように指導したい。“What subjects do you like?”は、教科書などでターゲットセンテンスになっていることが多いので、児童にとって聞き慣れているセンテンスの一つである。なお、センテンスをインプットしたい場合には、その単元を学習する間だけ覚えていて、次の単元になると忘れてしまう場合が多いので、既習事項を振り返る時間を常に設けると効果的である。